

# ひきこもり実態調査アンケート結果報告書（概要版）

## 1 調査目的

ひきこもり本人や家族に対する支援について、必要な支援機関に繋がっているか、求められている施策は何かについてアンケートを実施

## 2 調査期間

令和 5 年 9 月 11 日～同年 10 月 20 日

## 3 アンケート協力依頼先

区職員のほか、民生児童委員・委託事業者など、職務上ひきこもりの本人や家族等とふれあう機会があると考えられる方々

## 4 調査方法

LoGo フォームによる回答

## 5 回答結果

配布 1,298 通に対し、回答 240 通（回答率 18.5%）

## 6 主な設問と集計結果及び分析

主な設問と集計結果	集計結果の分析
ひきこもり状況把握の経験有無 →「把握している」「把握したことがある」が 60%	回答者の 60%がひきこもりの事例に遭遇している。
把握のきっかけ →「家族からの相談」が 76 件、「本人からの相談」が 22 件	本人からよりも家族や周囲からの相談が把握のきっかけであることが多い。
ひきこもり状態にある方への対応方法 →「現在のところ見守りにとどまっている」が 27% 「相談窓口や支援機関の情報を提供」が 24%	半数以上の方が、相談機関の情報提供や見守りの継続で終わっている。ひきこもりは相談や支援に繋がりにくいことが理解できる。
相談を受けて難しく感じること →「家族からの相談で本人が望んでいない」が最多	本人だけでなく家族も相談や支援を拒否し、支援につながりやすいケースも多い。
具体的な支援として何が必要か →「就労を目的としない息の長い支援」が 89 件で最多、「心理資格を持った職員による専門窓口の設置」が 61 件	多様な支援が要求されている。ひきこもりに特化した専門職のいる相談機関の設置が求められている。